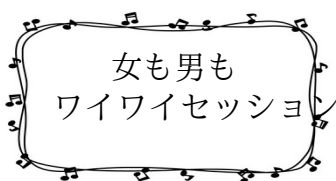


女性プラザ祭 2022 11月10日（木）かでの 2.7（札幌市）参加：6名



女も男も
ワイワイセッション

テーマ：LGBTQ とジェンダー平等

LGBTQ などの性的マイノリティの方々についての社会的な関心が高まっている中、当事者のお話を通して LGBTQ を取り巻く状況などについて考えました。



加藤丈晴さん：北海道合同法律事務所 弁護士、2004 年弁護士登録。LGBTQ、外国人などマイノリティの権利に関する事件、労働事件（労働者側）、家庭内や子どもに関する事件を扱う。LGBT 支援法律家ネットワークメンバー。ゲイ当事者（5 年前にカミングアウト）



柳谷由美さん：1986 年生まれ。中学までは異性愛者、高校1年で女性に告白され同性を好きになる事もあると気づく。アウトイング（自分がレズビアンである事を勝手に他人に暴露される）によりいじめを受け不登校も経験。2010 年にカミングアウト。2018 年から「さっぽろレインボーマーチ」実行委員長。



金子弘実さん：1983 年札幌生まれ。トランスジェンダー当事者（女性⇒男性）で幼少期から性別に違和感があり、30 歳からホルモン治療開始。2015 年タイで性別適合手術を受けて戸籍も男性に変更。2018 年から「さっぽろレインボープライド実行委員会」に所属し、現在は副実行委員長。趣味は釣り、元理容師、現在は運送業。

「女も男もワイワイセッション」に参加して

事務局長：水本 美津子

LGBTQ 当事者の話を聞いたのは、「2019 年市民フォーラム」で桑木昭嗣さんが初めてでした。アルファベットだらけで最初は良く分かりませんでした。今回、3 人の当事者の話を聞いて少し理解が深まった気がします。LGBTQ の「Q」とは、Queer（クイア）、Questioning（クエスチョニング）のことで、性のあり方は全て違い、自分の性が決められない、自分の性が分からない人、LGBT に分類されない

人のことでした。

LGBTQは、性的指向（好きになる性）の問題で、恋愛や性的興味が向かう対象が何か、トランスジェンダーは性自認（性同一）の問題で自分の性をどのように認識しているかで、性的指向も性自認も自ら選ぶことが出来ず、「人の性のあり方が56種類」もあることに大変驚きました。日本では8.9%（全国20～59歳の約6千人対象）がLGBT層に該当し、左利きの人、血液型ABの人、苗字が佐藤、田中、鈴木、高橋の人の割合と同じで、「自分の周りにも必ずいる」という事を改めて知りました。もしかしたら家族の中にいるかもしれないのです。

日本は、LGBTに対する無知や偏見が多くカミングアウトが難しい。自分の子どもが同性愛者やトランスジェンダーだったら、「嫌」「どちらかといえば嫌」だという確率が高く、LGBTQの人達が抱える困難も多々あり、その解消の一助になる制度が「パートナーシップ制度」です。導入自治体は全国で239自治体、証明書の交付件数は3,456組。同性婚は2001年にオランダで認められ、2022年7月末現在で同性婚が認められている国、32カ国・地域。婚姻と同等の法的効果を持つパートナーシップ制度を持つ国を含めると、世界人口の2割を超え、いずれの制度も持たない国は、G7では日本のみとは、とても残念に思います。日本の「ジェンダーギャップ指数」の順位は、2021年で世界156か国中、120位、先進国の中で最低レベル、アジア諸国の中で韓国、中国、ASEAN諸国よりも低いと言うのは恥ずかしいくらい残念なことと思います。

加藤弁護士の談では、同性婚の容認について、60代が初めて半数を超えた調査結果が出たそうです。自分も以前は違和感がありましたが、今は少し理解が出来るように変化してきた気がします。

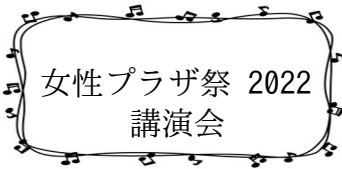
身体に障がいのある人達が暮らしやすい社会は、健常者や高齢者にとっても暮らしやすいのと同じように、LGBTQの人たちが暮らしやすい社会は、誰もが暮らしやすくなるのではないかということでした。

加藤弁護士は最後に、LGBTQであることは、それ自体が不自由なわけではなく、不自由さ、生きにくさの原因は周囲の人々による差別、偏見、無理解と、何気ない言動に潜む無意識の偏見であること、ジェンダーやセクシャリティの問題は、私たち一人ひとりの問題で、自分らしく生きるための最も基本的な権利の問題であると締めくくりました。生まれた時から、刷り込まれている偏見や思い込みは、なかなか変われないと思いますが、ちょっと立ち止まって違う方向から考えてみる機会を多くしていきたいと思いました。



「4つの性について」・・・なぜ性のあり方は多様なのでしょうか？考え方の一つに性は4つの要素のバランスによってできているからというものがあります。

- 身体の性 生殖器や染色体などで判断される性。
- 心の性 性自認とも言います。自分自身がそうだと強く確信している性。
- 好きになる性 性的思考とも言います。性的感情がどの性に向くかを意味します。
- 性表現 振る舞いや服装などで示される性別の表現です。



女性プラザ祭 2022
講演会

「生誕 100 年・三浦綾子文学の魅力と女性に贈る言葉の花束

講師：北海学園大学教授/三浦綾子記念文学館館長 田中 綾 さん



現在、北海道新聞で夫・光世の日記をノベライズした『あたたかき日光（ひかげ） - 「光世日記」より』を連載中の三浦綾子記念文学館館長田中綾さんを講師に綾子の半生と女性たちを励ます言葉などを紹介いただきました。

女性プラザ祭 講演会に参加して

事務局次長：伊藤 美恵子

小説「氷点」「塩狩峠」「泥流地帯」など北海道を舞台にした数々

の傑作小説で知られる三浦綾子。2022 年は三浦綾子生誕 100 年の年でした。旭川市出身の三浦綾子は、1964 年に「氷点」で作家デビューし「朝日新聞一千万円懸賞小説」に応募し入賞。42 歳という遅いデビューでしたが、その後、病と闘いながら夫・光世と二人三脚で小説を書き続けました。

講演では、三浦綾子記念文学館館長の田中綾さんから、多様なジャンルにわたる作品を遺した三浦綾子の劇的な半生をクイズ形式で紹介いただき名作が生まれた背景などを紹介いただきとても興味深く拝聴しました。

小説を通して「ひとはどう生きるか」という問いかけを続けた三浦綾子の小説には、女性に寄り添う名言や名セリフがたくさんあります。

- 「一生に一度も転んだことのない人はいない。転べば立ち上がればいいのだ。」（「帰りこぬ風」より）
- 「愛するとは、許すことでもあるんだよ。一度や二度許すことではないよ。許し続けることだ。」（「ひつじが丘」より）
- 「一生を終えてのちに残るのは、われわれが集めたものではなくて、われわれが与えたものである。」（「続氷点」より）
- 苦難に会った時に、それを災難と思って嘆くか、試練だと思って奮い立つか、その受け止め方が大事なのではないでしょうか。（「続泥流地帯」より）

田中館長は現在、北海道新聞で夫・光世の日記をノベライズした『あたたかき日光（ひかげ） - 「光世日記」より』を土曜日の紙面で連載中です。「綾子と光世は隠し事のない夫婦で、日記は、備忘録であり健康の記録であり家計簿である」と話されていました。

青春時代に 13 年間も結核で闘病したり、心臓病、直腸がん、パーキンソン病など数々の病魔に苦しみながら 77 歳でこの世を去るまでクリスチャンとして信仰に根ざした作品を生み続けた三浦綾子の小説は、時代を越えて愛されていくことと思います。

今回の講演に参加させていただき、三浦綾子の生涯にふれて改めて三浦文学の素晴らしさと女性のたくましさを実感させていただきました。



テーマ：「議員となってみえたこと」

講師：深川市議会議員 大前 昭代さん

深川市議会議員 田畑 陽美さん



深川市議会議員として活躍されているお二人を講師に迎え、パワー溢れる市政への思い等を聞かせていただきました。

◆市議会議員になろうと決断した時の思いは？

(大前議員) 公務職場で勤務した経験があるが、正規職員と非正規職員とでは労働条件に大きな差があり少しでも改善できればとの思いがあった。また、母子家庭で子育てをした経験から、一人で子育てをする親への支援について市議会議員として取り組んでいきたいと考えた。

(田畑議員) 市役所と市民の間には距離があると感じていた。議員出馬の話を頂いたときに行政と市民の橋渡しができればと思った。市民と一緒に市政を進めていければ考えている。



◆市議会でジェンダーギャップを感じたことは？

市議会に限らず色々な場面で言葉や態度でジェンダーギャップを感じることはある。その方の育ってきた環境でしみついたものがあり無意識に発言してしまうのだと思う。

男性も女性もお互いに気を付けていかなければならないと思う。

◆女性議員や若い議員を増やしていくためには？

(大前議員) 「自分も議員になってみたい」と思ってもらえるよう議員として生き生きと活動し皆さんから憧れられるような存在になりたいと思う。若い方でも子育てしながら議員活動ができるよう支援や保障を国全体で考えていかなければならないと思う。

(田畑議員) 議員と市民の距離が近いほど議員活動に興味を持ってもらえると思う。「議員は身近な存在」と思ってもらえるようにしたい。若い時から政治に関心を持ってもらい自分たちの住んでいるまちを自分が声をあげて変えていけるという気持ちを持ってもらいたい。

(理事：東出周子 記)



〈田中理事が退任〉

本会の設立当初から理事を務めていただいた田中昌幸さんが、この度、深川市長に就任され理事を退任されることとなりました。長きにわたり本会の活動にご尽力いただきましたことに感謝を申し上げますとともに、今後は、行政の先頭に立ち男女平等参画社会の実現に向けてご活躍されますことを願っております。

第22回総会のご案内

日時：4月14日(金) 18時

会場：中央公民館 1階中会議室